



人

無飽三貳圖會

卷之三
地部
玉石雜石類
草花類
茸類

遠 13
1917
33



門へ 13
番 1317
卷 3



柏平

無飽三賊圖會卷第三目錄

地部

首尾山之圖

同四太州之說

玉石雜石類

牟形石

獨寢石

偽石

思案石

書出石

酒宴石

酒吸石

參伍牟

著替石

枕石

飛脚石

送石

鏡石



柏平



須彌山之圖 一名蘇迷盧山

俗名首尾山ト云

萬客月日ニ想ヒテ益テ

首尾山ニ晝夜ヲ分テ通フ

時ハ春ノ白モ短ク

秋ノ夜モ

明夏

早シト云

北ハ黄ニ南ハ青ク
東ハ白西ハ紅ニ

蘇迷盧山

地黃草

見舞狀

石鏡狀

百柄狀

朔日狀

十五日狀

禮狀

無心狀

扇狀

西銅州

西銅州

草花類

三絃草	口酸漿	紅藍花	水引草	玉琴草
水揚草	酒中花	愛相草	鐵漿華草	線香花
花芒	爪折草	菊燈臺	吸付草	黃金菊

草類

鼓茸
南邊草

思和志草
誣草

譽通草
首草

アミラ

金剛經注云須彌山主在四天下之中為山之極大者故
 大山之名づく辛苦の日月廿五曆を造つてこれを適ると
 此四面小州あり是を首尾の四太州と号北方を北華と
 号俗新地と号此州日々に新小華をかざり島黃
 金の色をあふる故北面を黄色と南方面の江南と
 号けく日毎小木の若葉木の榮るごとく緑の色をあふ
 一色の藍をふくむかゆへ南面を青色と東方面の
 青樓まじりぬく白幕の色をけく東面を白色
 西方の花街州と云く晝夜朝暮を分る紅の花の

まがてを顯る外小並ぶる方あり故小西面を紅色と
 蘇迷盧山と云く這山を望む者心を色小染る故小
 斯号く須彌ハ首尾をくよき首尾を得る逢んと願ふ
 意あり是るごとく土地山嶽の類を著し取あれども夏

燃石

一名 飛石



故後篇小のむして
 雜石草花の類をけく
 〇午飛石ハスコベヤコダイガ
 夕ホ小号く出る這石怪
 石ハ一て水火の氣を受て

獨寢石

一名於茶換石

ヒトリ子



慈石



一名偽積

又持積

云有

思案石

一名コニシ



書出石

忽ち猶とある夏ありハス

コベヤみてハ香花茶茶誼ホの

恠石を手形とあると云水

火の氣を受るといハ河竹

の流の水小濡る時を

懸行燈の火氣を受る

時益石燭くと燃ると甚し

是を手形の焼る云々則

住取を矢ふの表ありつ

ア三ア三

酒真石

珊瑚珠



一名冬伍午

包石

一名替替石



又酒席



酒吸石

一む

獨寢石一名於茶換石

号く至つ淋と花山小

陰氣をうもつ不景太の

下小生と云増家のま

婆あんど大ふ是を忘

ついでまらつ罵と云へ

慈石二種あり持積

傾城原小おのづい生

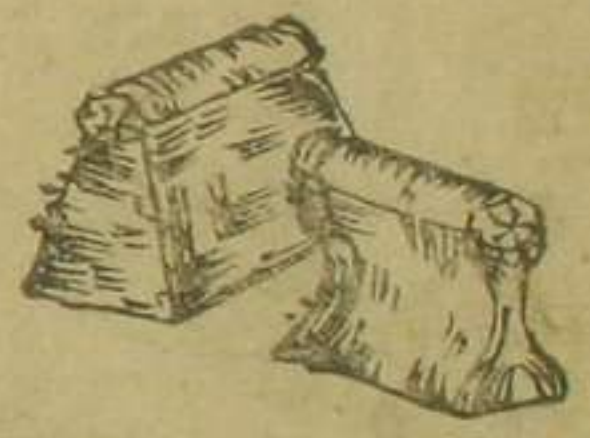
枕石

飛脚石

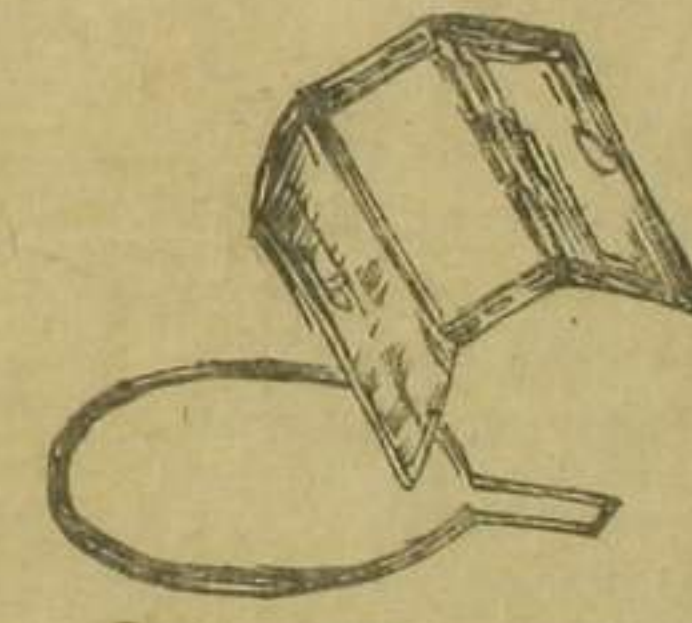
送石

一名
急用石

一名
閨中石



鏡石



石の毒氣を傳
積の傾国虚言の谷の傳
る生むと云又空波の
雨も降く生じても
く慈石の鉄をく
云ども此小圖なる偽積の
人の金銀をよく吸する
毒石あり

○思案石一名ツラシキ

ア三ノ四

六十日の節季に至つて青樓の立越の峯又ハ大通山より
生じと云惣く此石の理疎してはまづん故斯号く書
山石ある思慮しより大なるもの出る云

○酒宴石ハ遊里の樓上ハ晝夜を分る生む此石の
ころ小近付る石の酒氣ハあつて酔る度甚し
○酒吸石ハ腹中ハありと云傳ふれども此小圖なるハ酒えん
石とむろく生じて其くち筒茶挽のどし又益石

○古都市石ハあれどもろく小澳
○珊瑚珠ハ其くち人の手の如く云故小三伍年なる

酒^{しゆ}其^{その}石^{いし}と云^いこ^こ生^なの^の其^{その}石^{いし}の^のあ^あま^まく^く悪^{あく}を^を下^げ半^{はん}三^{さん}
任^{にん}半^{はん}と云^い薩^{さつ}麻^ま半^{はん}あり^{あり}山^{さん}を^を一^{いち}半^{はん}石^{いし}と云^い

○包^{ほう}石^{いし}の^の數^{すう}品^{ひん}あり^{あり}々^々各^{かく}色^{しき}異^いふ^ふ々^々義^ぎあり^{あり}閨^{けん}中^{ちゆう}の^の屏^{びん}

風^{ふう}岩^{がん}の^の邊^{へん}に^に生^なじ^じ一名^{いちめい}着^{ちゃく}替^か石^{いし}と云^い角^{かく}の^の立^たち^ちの^の哥^か妓^ぎ国^{こく}

より^{より}出^いで^で三^{さん}絃^{けん}石^{いし}と云^いづ^づ時^{とき}節^{せつ}雄^{ゆう}山^{さん}の^の肩^{かた}に^に生^なじ^じと云^い

○枕^{まくら}石^{いし}の^の多^たく^く其^{その}色^{しき}黒^{くろ}く^く光^{ひかり}澤^さあり^{あり}此^{こゝ}石^{いし}は^は人^{ひと}の^の腎^{じん}精^{しやう}を

吸^{すい}石^{いし}あり^{あり}故^{ゆゑ}是^{こゝ}を^を枕^{まくら}と^とあ^あり^り夏^{なつ}甚^{じん}し^しと^と時^{とき}ハ^ハ精^{しやう}氣^き虚^{きよ}して

身^みと^と亡^なぶ^ぶの^の至^{いた}る^ると云^い又^{また}古^こ語^ご小^{せう}魚^{ぎよ}肉^{にく}を^を食^く酒^{しゆ}を^をの^の

石^{いし}を^を並^{なら}べ^べ是^{こゝ}を^を枕^{まくら}と^と一^{いち}悲^{かな}又^{また}其^{その}中^{ちゆう}に^に有^あり^りと云^いへ^へる^る夏^{なつ}の^の

石^{いし}の^の枕^{まくら}小^{せう}宿^{しゆく}り^りる^ると云^いる^る言^{ことば}あり^{あり}何^{なに}も^も不^ふ宣^{せん}し^しの^の悪^{あく}

石^{いし}な^なれ^れば^ば枕^{まくら}の^の石^{いし}を^をい^いじ^じと^と恋^{こゝろ}の^の淵^{ふち}に^に入^いり^り大^{おほ}き^き危^{あや}ま^ま夏^{なつ}也^{なり}

○飛^ひ脚^{きゃく}石^{いし}一^{いち}名^{めい}急^{きゆう}用^{よう}石^{いし}と云^い花^{はな}街^{がい}小^{せう}數^{かず}多^たく^く生^なじ^じ送^{そう}石^{いし}とい^いへ^へ

も^も同^{どう}地^ちあり^{あり}山^{さん}々^々能^{のう}あり^{あり}々^々便^{べん}用^{よう}よ^よき^き石^{いし}也^{なり}

○鏡^{かがみ}石^{いし}の^の石^{いし}面^{めん}光^{ひかり}赫^{せき}々^々人^{ひと}の^の面^{おもて}を^をう^うら^らぬ^ぬ夏^{なつ}天^{てん}下^げ一^{いち}の

名^な石^{いし}な^なり^り丸^{まる}く^く大^{おほ}き^き一^{いち}尺^{せき}餘^{あま}あり^{あり}角^{かく}あり^{あり}六^む寸^{すん}餘^{あま}は^は

て^て野^の辺^へに^に生^なじ^じ故^{ゆゑ}に^に鏡^{かがみ}石^{いし}と^とい^いふ

○三^{さん}絃^{けん}草^{そう}の^の河^か竹^{ちやく}の^の流^{なが}れ^れを^をひ^ひ一^{いち}陽^{やう}氣^きの^の地^ちに^に生^なじ^じ四^し時^じ

も^も小^{せう}枝^{えだ}葉^はを^をあ^あり^り義^ぎし^しに^に井^い化^かあり^{あり}往^い昔^{こゝろ}の^の花^{はな}の^のあ^あか^かめ

三絃草

水揚草

一名
突出草

花薄



一名

轉草



のふり〜〜実をうる夏

稀あり〜〜近世の容子の

風小此花轉落〜〜情の

露を結び實をうる夏

女郎花小かまらる夏あし花

一名を轉草と号く春の

比の尻定まぬ蝶々來て

此花小戯と遊ぶゆ〜〜近比

流行せ〜〜言小蝶々三絃

口酸漿

酒中花

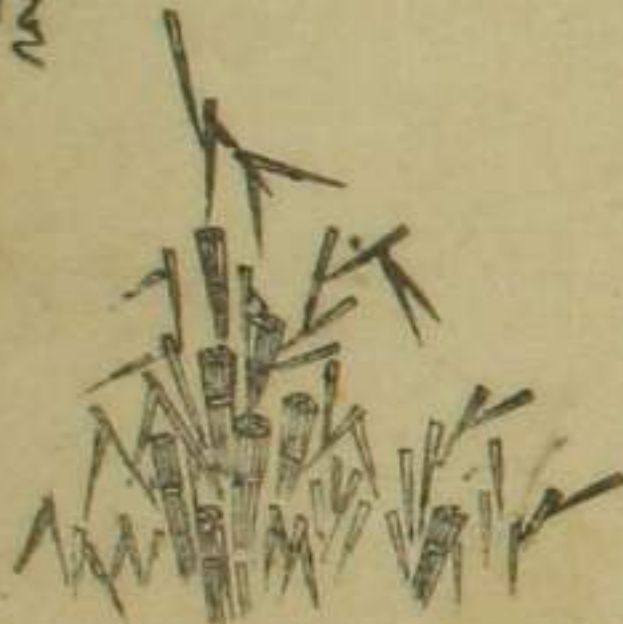
一名
差込草

又
屈折草

楊枝艸



慰草



草と〜〜ひ〜〜此草の

夏あり

○水揚草一名をつさじ

草と云本是恍惚子菊の

年を魚〜〜夏せ〜〜との

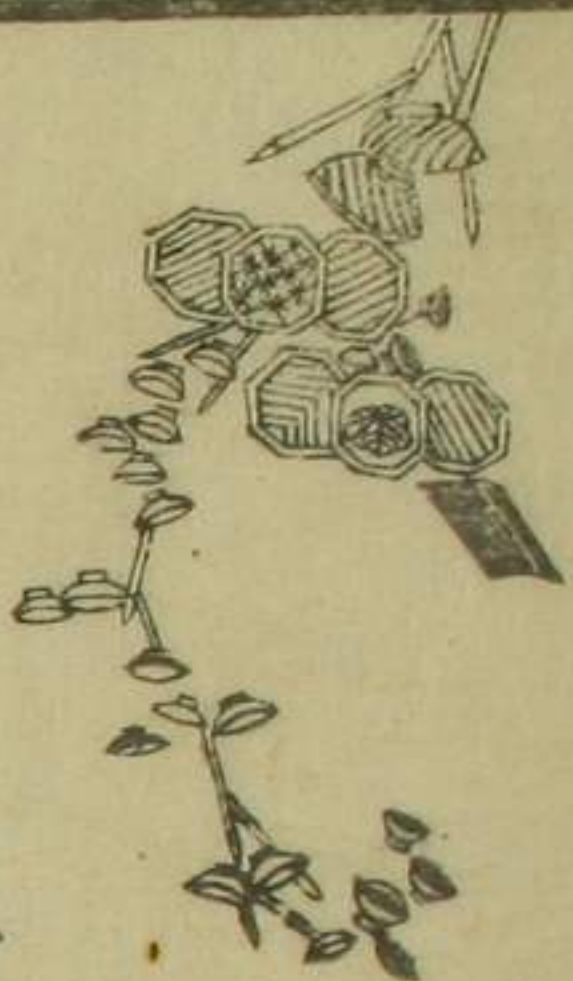
あり花〜〜つ〜〜美〜〜

枝だ〜〜ゆ〜〜い〜〜ある

風小もたび〜〜と云花薄も

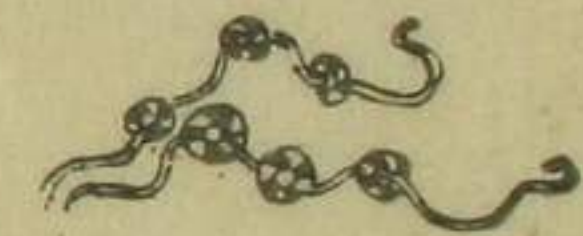
同種類あり〜〜情の色を

紅藍花



愛相草

一名 元へイト草



氣燈花



穂ふあつま一人をまねくこ

哥あどふも詠こり

○口酸漿一名慰草復の

比多く遊里小生を花開

く時の一ましく音り

花びら人の唇か似こり

草小二種ありて上品を根

引と云下品をカキと云

○酒中花ハ色さぬくられ

水引草



鐵漿筆草



一名 飾草

吸付草

一名 烟州



おも多く紅藍あり酒を

ねも多の忍花開かあふ酒

中花と号く枝ハ白銀の如

くある草多く都て花と

枝ハ別あり是接木の類

あるべし

○瓜折草ハ食後酒園小

み生せる草やて枝葉白

葉先の細さを上品と

玉琴草

線香花



一名
花山草

一名
コロシ草



黄金菊

一名
大盡州



太さを下品と云ふ美人草の

花の唇月かささろく紅の

色をあとえん有是を得

く悦ぶ者まろりる云

○紅の花化粧の園小咲て

花のくさち盞のどく葉の

六角八角式丸く角あるも

ありく色白銀のどく云

○愛相草一名阿留平糖

ア三入

草と云ふ花丸く紅白のまぐり味ひ至つて其し哥妓
娼婦亦此花をとりて小縫糸の類を通し筭あど結
付る夏あり

○菊燈花一名燭臺草と号し黄昏より花咲をぬく
四面をてり諸客此花の下ふ來り酒宴を催し戯る
あり夜ともふ下外をすらもり此花四季ともふあり
らめの花散果ざるらみ新ある花次第小咲り時
をのしんを切古又あり年々歳々花相似歳々年々人不同
こいへる此菊燈の花は年々相かざるも客は夜毎

かまろく同トのふがれが是を言しものあべー

○水引草一名飾草云種類多しして色悉く異あり

數日を過る油あどむ時ハ忽色を變ぢると云

○鐵漿草の莖莖のどくふし葉黒し朝夕を

分ぐ摘むれ鐵漿みささる故斯をづく

○吸附草一名烟艸又憂忘草云花開く時烟を發し

其香至つとよ花終る時灰とあり散とりの遊里

み咲る花ハ半ふして散ゆ半ハ灰とあぶ是花ハ半

閑酒ハ半醉の言ふられるあべー

○玉琴草ハ細き莖十三をト山々おのく花あり風の

手のあたるみ随ひあらんと鳴ゆころ草こあづく

此草ハ至つと騒し地ハをさちざし静ある園ハ植

風のあぶをを聞登し

○線香花ハ四面の島にある花山ハ生山なる故花山草と

も号し晝且夜をさくは四季とも花あり昔は昏ふ

一入花盛んあり花びらふ香をさく咲あつ燃るが如

し此花ハ狼藉をさく是をさる者あり号けし

線香番々云

○黄金菊の大盡国のよき種を蒔る地は數多生を
 故一名を大盡草と号く此花咲ふれ〜四面ふちつ
 しく時娼家青樓潤ふ古交夥〜唐土の慈童の菊
 潭ふ捨れ菊花の志〜りを飲〜壽と〜とち〜
 〴〵黄金菊の花河竹ふ散その流をすつ〜遊
 里の男女數日の皺を延とと云されども黄金菊は枯る
 古又早〜榮つる古又遲〜草あれば風の年の何〜よ的
 ほど大切み〜と〜と〜長〜樂むべ〜是則ち粹ある
 べ〜と云う三賦圖會の趣向あり

鞞草

一名

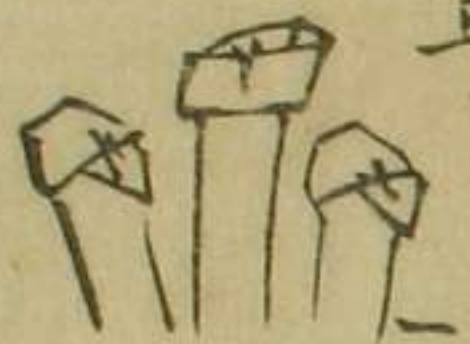
チカラ



思の草

一名

思和志草



四ツ草

一名

柏子草



○鞞草の大なるり小なり
 小い山の肩ふ生〜大なり
 山の腹ふゆるかさ白ぢく
 黒〜て光澤あり都〜木
 々の葉の散つ〜と〜生
 山〜ゆ〜ふ〜一名をちりり〜
 とも云林中みもヨク生
 ○四草一名柏子草と云く
 鞞草の類い〜と〜林の

ホヘン草

証草

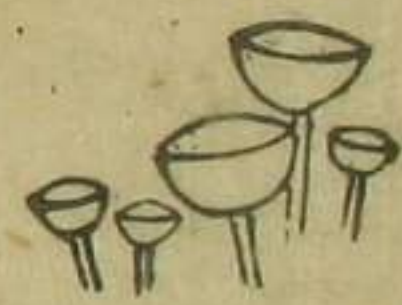
一名

半分草



首草

薰草



中ちゆう生せいトと節せつありありその
かかちち拳けんの如ごと一ひとかかぶぶ
二ふた本ほんづづ生せいトと二ふた牧ぼくづづ有あ
故ゆ四よ草そうと号ごうす

○思おも之ひ草のハハ恋こひの山やま思おもの山
ホほみ言ことの葉は草のの志こころを
積つ一ひと地ち生せいに真まふあ
り味あじあるも有あるち
味あじあるもの多おほく有あ

ア三ノ土

是こゝハハ至いたつつ油あぶらつつ誤あやつつ食くままををかかべ

○ホほヘへ草のハハ其その色いろ白しろく又また青あおささりり春はるの比ひままくく生せいぶぶ光あ
澤やありあり甚た美みしく其そのううささぢぢくくも弱よき故ゆ風かぜの午うりり
的てきはは忽たちちち碎くだるると去いへへ嶋しまのの蚕あなの子こホほ是こゝををりり歌うた
びとありとる

○証しん草のハハ鉢はち水のの邊へらや酒さけ氣のの深ふかままり地ち生せいぶぶ其その色いろ
さ有あ瑠る璃り色いろあり都みやころろち大おほあり俗よこギヤギレレココツツププああ
ここのの是こゝをを製つくるる用もちひひ酒さけをを証しんるる故ゆ証しん草のと名な
づく又また人ひと大おほ醉よめして半はん分ぶん草のとと又また有あ此こゝ余あま丈だけ草の是こゝ草の

阿出草あいでさ往草むかひさ去草いへさ吳草くれさ貫草くわんさ登宇とうう推草おしさ斯推草すおしさ
あどあまう敷あまう多あまうあれどもあまう夏あまう一あまうげればあまう此あまう小あまう渡あまうらあまうる

○首草くびさハ其種類そのしゆるい多おほくテ各名そのなあり勝山かつやま島田しまだあり山やまらる

夏あまう多あまう一あまう又政圀まさのう抗上かうじやう早はや并なら甲螺かいら奴やつホおままくく有あ惣おろろ色いろ

黒光澤くろくわつさくありくく薰かぐりよよまま夏あまう他たの及およぶぶ形かたちふふああるる恋草こひさの

露つゆ一ひとちちまま地ちふふ生なむむ故是ゆゑこれををままららるる下駈げををくくりりし

ああづづけけくく下駈げををくくりり首草くびさとと云い斯すああややくく草くさ生なむむ地ちふふ

戯たぶと遊あそびび其身そのみの濡穢ぬれきたをを志しくくればれば大夏おほなつ及およべべ慎玉ちんぎよくへへ

魚飽あまね三賊さんざく圖會ずゑ三之卷さんのかまき大尾おほびし

ア三ノナ

跋

魚うしをを水みづ中なか小こ遊あそぶぶくくああららるる人ひとをを志しすす

中なか小こああららるるくく志しすす人ひとをを志しすすくくああららるる人ひとをを志しすす

おおぼぼれれくく輝あかりををままららるる夏あまう多あまう一あまうげればあまう此あまう小あまう渡あまうらあまうる

夜よ青梅あおばいのの花はなをを志しすすくくああららるる人ひとをを志しすす

賢けん癡人ちじんのの教しやくをを志しすすくくああららるる人ひとをを志しすす

ややもも勝かち勝かちくくああららるる人ひとをを志しすす

ああららるる人ひとをを志しすすくくああららるる人ひとをを志しすす

ああららるる人ひとをを志しすすくくああららるる人ひとをを志しすす

癡うらみあはしき、蒙の獲さむれと
祭る有地天とあり、氣の重うらむ
居つゝま地、目とある、故ふ天、動
陽の業、地を靜め、陰也、中ふ
や、何じの世界、や集る、志の山、向く
おごり思ひの性、慢く業、そのあ
増を甚く、編半や、考、果て
とくも、あふ、每飽、三、純、志、と、影

ア三ノ十三

又、緯、半の、ヤ、ろ、ふ、あ、う、ふ、阿、ろ、ん、も、米、粒の
空、さ、ふ、あ、ゆ、れ、あ、半の、附、ま、ふ
あ、ひ、あ、ひ、あ、ひ、あ、ひ、あ、ひ、あ、ひ、あ、ひ、あ、ひ

又、返、より、の、し

あ、ひ、あ、ひ、あ、ひ、あ、ひ、あ、ひ、あ、ひ、あ、ひ

曉、鐘、成、誌、也

拍平

編名

曉

鐘成

英

繪畫

櫻港

翻蝶葉藏

三十一日

55

